

(2) 投資回収に関する情報

投資回収年

投資回収年数	11.8	年
--------	------	---

A.3 排出削減量の算定方法

A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
ER	排出削減量	tCO2/年	26.0
EM_{BL}	ベースラインの主要排出量 ※1	tCO2/年	99.7
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2/年	73.7

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

(1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

ベースライン空調設備の冷媒はR22、プロジェクト空調設備の冷媒は(考え方) ※1 R410Aである。したがって、方法論 (EN-S-004) の規定に基づき、空調設備の冷媒の漏洩によるベースライン排出量は算定対象としない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
—	—	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A. 3. 1で算定した排出削減量と比較して付随的排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的排出活動のモニタリング・算定方法を定めること。
ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

ベースラインの空調設備における冷媒は、冷媒を使用しているが自然冷媒を使用していないため、プロジェクト実施後排出量を考慮しない。
(考え方) ※1 また、空調設備については、フロン回収破壊法に従い、特定事業者に引き渡し、引取証明書を取得しているため、廃棄時のフロン漏出は考慮しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
-	-	-	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	0.0	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。
 ※2 A. 3. 1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。
 ※3 方法論で規定された方法から選択すること。
 ※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

$$EM_{PJ} = EM_{PJ,M} + EM_{PJ,S} \quad (\text{式2})$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量	tCO2/年	73.7
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	73.7
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	0.0

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 方法論004のプロジェクト実施後の空調設備の電力使用量から算定する。

$$EM_{PJ,M} = EL_{PJ} \times CEF_{electricity,t} \quad (\text{式3})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	73.7
EL_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量	kWh/年	133,003
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.000554

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の空調設備による生成熱量を、プロジェクト実施後の空調設備からではなく、ベースラインの空調設備から得る場合に想定されるCO2排出量とする。なお、暖房については、排出量が少なくなるよう灯油ボイラ分のみを算出している。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$Q_{BL,heat} = Q_{PJ,heat} = EL_{PJ} \times \frac{\varepsilon_{PJ}}{100} \times 3.6 \times 10^{-3} \quad (\text{式11})$$

記号	定義	単位	想定値
$Q_{BL,冷房}$	ベースラインの空調設備による生成熱量	GJ/年	819
$Q_{BL,暖房}$	ベースラインの空調設備による生成熱量	GJ/年	698
$Q_{PJ,冷房}$	プロジェクト実施後の空調設備による生成熱量	GJ/年	819
$Q_{PJ,暖房}$	プロジェクト実施後の空調設備による生成熱量	GJ/年	698
$EL_{PJ,冷房}$	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量	kWh/年	77,884
$EL_{PJ,暖房}$	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量	kWh/年	55,119
$\varepsilon_{PJ,冷房}$	プロジェクト実施後の空調設備のエネルギー消費効率	%	292
$\varepsilon_{PJ,暖房}$	プロジェクト実施後の空調設備のエネルギー消費効率	%	352

A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

【冷房】

$$EM_{BL,M} = Q_{BL,heat} \times \frac{100}{\varepsilon_{BL}} \times \frac{1}{3.6 \times 10^{-3}} \times CEF_{electricity,t} \quad (\text{式14})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL,M}$	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	45.3
$Q_{BL,冷房}$	ベースラインの空調設備による生成熱量	GJ/年	819
$\varepsilon_{BL,冷房}$	ベースラインの空調設備のエネルギー消費効率	%	278
$CEF_{BL,fuel}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.000554

【暖房】

(灯油ボイラ分)

$$EM_{BL,M} = Q_{BL,heat} \times \frac{100}{\varepsilon_{BL}} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式16})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL,M}$	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	54.4
$Q_{BL,暖房}$	ベースラインの空調設備による生成熱量	GJ/年	698
$\varepsilon_{BL,暖房}$	ベースラインの空調設備のエネルギー消費効率	%	88
$CEF_{BL,fuel}$	灯油のCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0686

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A. 4.1 モニタリング計画

(1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
EL _{PJ, 冷房}	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量	kWh/年	C	電力計による計測をもとに算定	月	77,884	実測値	気象庁における米子市平均気温から冷房を使用することがない11～3月の電力量を暖房用途とし、4～10月については保守的に常時冷房使用と判断して計算する
EL _{PJ, 暖房}	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量	kWh/年	C	電力計による計測をもとに算定	月	55,119	実測値	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。
 分類B（計量器）を用いる場合には、A. 4. 2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。
 分類C（概算等）を用いる場合には、A. 4. 3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
ε _{BL}	ベースラインの空調設備のエネルギー消費効率	%	II	消費電力等が記載されたカタログ資料を保管する。	-	冷房278、暖房88	カタログ資料	【冷房】パッケージエアコン、冷却塔、冷却水ポンプの加重平均値【暖房】ボイラー、温水ポンプの加重平均値。提供事業者三菱電機
ε _{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備のエネルギー消費効率	%	II	消費電力等が記載されたカタログ資料を保管する。	-	冷房292、暖房352	カタログ資料	提供事業者：三菱重工
CEF _{BL, fuel}	灯油のCO2排出係数	tCO2/GJ	III	デフォルト値を使用する。	-	0.0686	デフォルト値	
CEF _{electricity, t}	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	III	デフォルト値を使用する。	年	0.000554	デフォルト値	全電源方式

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類I・II・IIIのいずれかの方法を選択すること。
 分類I（実測）を用いる場合には、A. 4. 4において実測方法の説明を行うこと。
 分類II（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

A. 4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類B (計量器)を使用する場合の計量器について説明すること。

(1) 計量器の概要

①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限

②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明

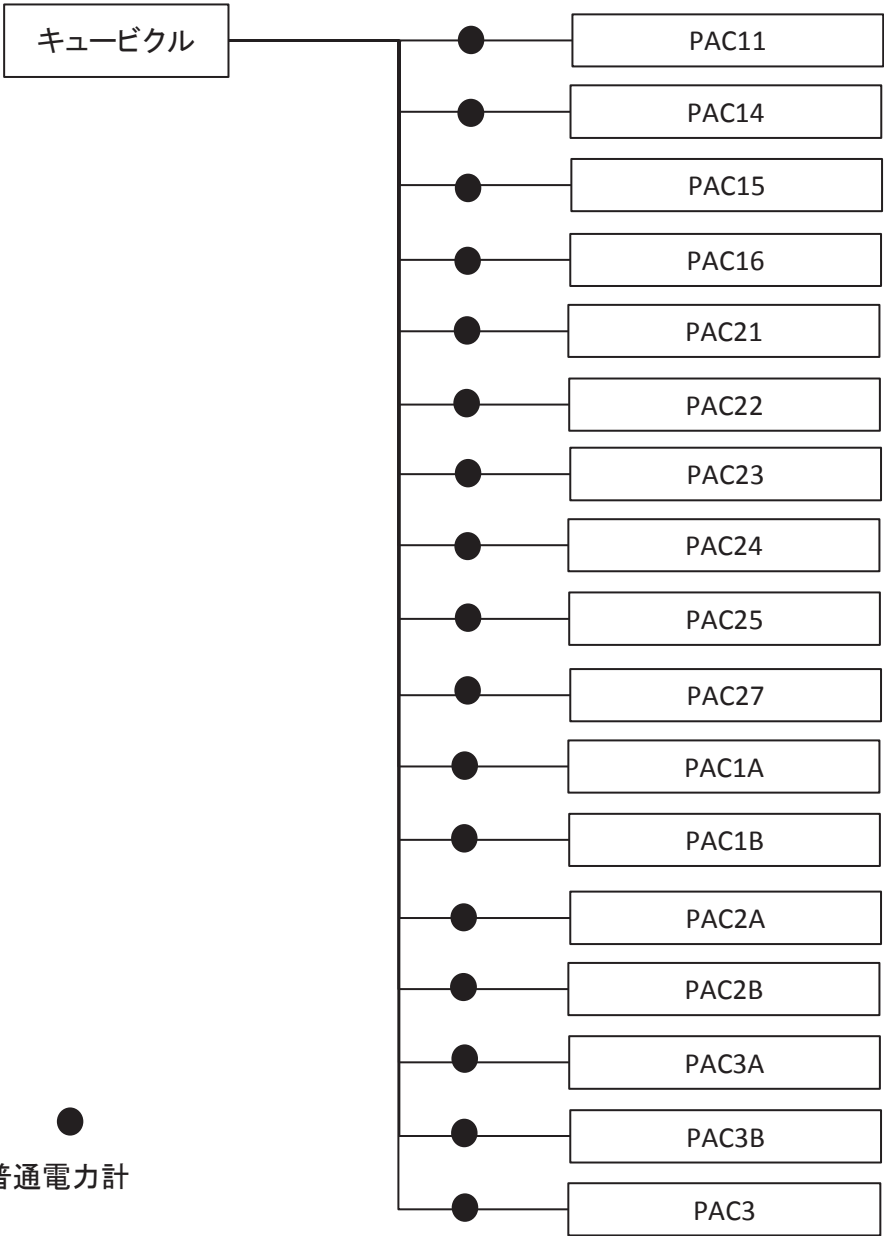
※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

(2) モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量
<p>(推定・概算方法)</p> <p>計量法に基づいた検定等を受けていない普通電力計を用いて、電力使用量を測定している。電力計の器差は±2.5%である。</p> <p>保守的に2.5%を差し引いた値を電力使用量として採用する。</p> <p>(モニタリングポイント)</p>  <pre> graph LR CB[キュービクル] --- Bus Bus --- PAC11 Bus --- PAC14 Bus --- PAC15 Bus --- PAC16 Bus --- PAC21 Bus --- PAC22 Bus --- PAC23 Bus --- PAC24 Bus --- PAC25 Bus --- PAC27 Bus --- PAC1A Bus --- PAC1B Bus --- PAC2A Bus --- PAC2B Bus --- PAC3A Bus --- PAC3B Bus --- PAC3 </pre> <p>● 普通電力計</p>	

A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類A～分類C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目	